

この本の特色と使い方

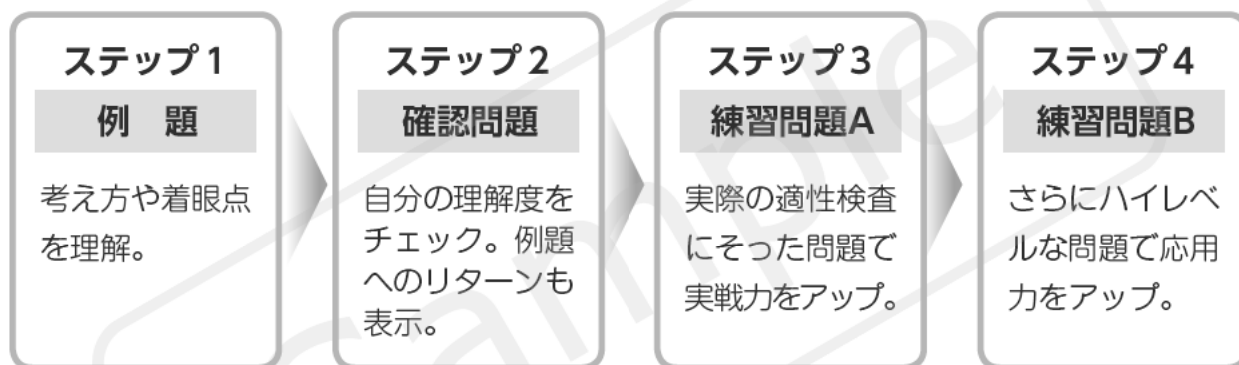
この問題集は、「思考力」「表現力」「判断力」「分析力」をみる総合的な問題を集めたものです。

まずは、覚えなければいけない知識は何か、どうすれば考えをすばやくまとめられるか、どう表現すればわかりやすいかといったことを意識しながら学習しましょう。そして、基礎的な問題から類題、さらに応用的な問題へと学習を進めて、適性検査に必要な力を身につけてください。

1～6課は4ステップ、7課は3ステップで構成されています。

ステップ1～3では、基本的な考え方や知識が完全に身につけていることを確認しながら学習を進めてください。ステップ4では、さらに幅広い形式の問題や、複数の考え方が組み合わせられた高度な問題に挑戦して、応用力を高めましょう。

8課の総合問題は、確認問題と練習問題の2ステップで構成されていて、1～7課の内容を総合的にあつかっています。多くの問題にふれて、実力を身につけましょう。



も く じ

1	産業	2
2	文章整理(1)	13
3	交通	14
4	主題	25
5	環境・資源	26
6	文章整理(2)	37
7	読解と意見記述	43
8	総合問題	44

1 産 業

テーマ

- 日本の農業の中心である米づくりのようすを理解する。
- 食事に使われる食材を通して、農業や水産業、食料品工業について考える。
- 現在の日本の農林水産業の状況や課題について理解を深める。

例題 1

まさおさんは5月最後の週末を利用して、岩手県で米づくりをしているおじいさんの家へ遊びに行きました。次の会話文を読んで、あとの問いに答えましょう。

ま さ お：「おじいさん、こんにちは。今年の米づくりのようすはどう？」

おじいさん：「おお、まさおか。この前、田植えが終わったんだよ。」

ま さ お：「あれ、田んぼに水ははったままなんだね。」

おじいさん：「まさお、ちょっとはだしになって田んぼに入っごらん。理由がわかるよ。」

ま さ お：「ああ、田んぼの水はぬるいんだね。外の空気の方が冷たく感じるよ。」

おじいさん：「そうだろう。この水のぬるさが稲の生長を助けてくれるんだ。」

ま さ お：「それじゃあ、田んぼの水はぬかないの？」

おじいさん：「もうしばらくはこのままだよ。このあたりでは、①稲の生長や天気の様子を見ながら、田んぼの水の量を調節するんだ。」

ま さ お：「あれ、田んぼには鳥がいるよ。どこから飛んできたのかな。」

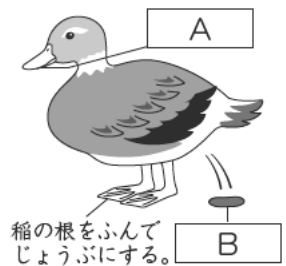
おじいさん：「あれはあいがもという鳥だよ。田んぼにあいがもを放して、米づくりを手伝ってもらっているんだよ。ああやって、あいがもに歩いて稲の根をふんでもらうと、稲がじょうぶになるんだ。②他にもいろいろと、役立つことがあるんだよ。」

- (1) ——線①について、田植えが終わった後も田んぼに水をはる理由は何ですか。おじいさんの家がある岩手県が、東北地方にあることに注意して書きましょう。

[]

- (2) ——線②について、右の図はあいがもが、米づくりで役に立っているようすを説明したものです。 [] A と [] B にあてはまる内容を考えて書きましょう。

A ()
B ()



考え方

ステップ 1

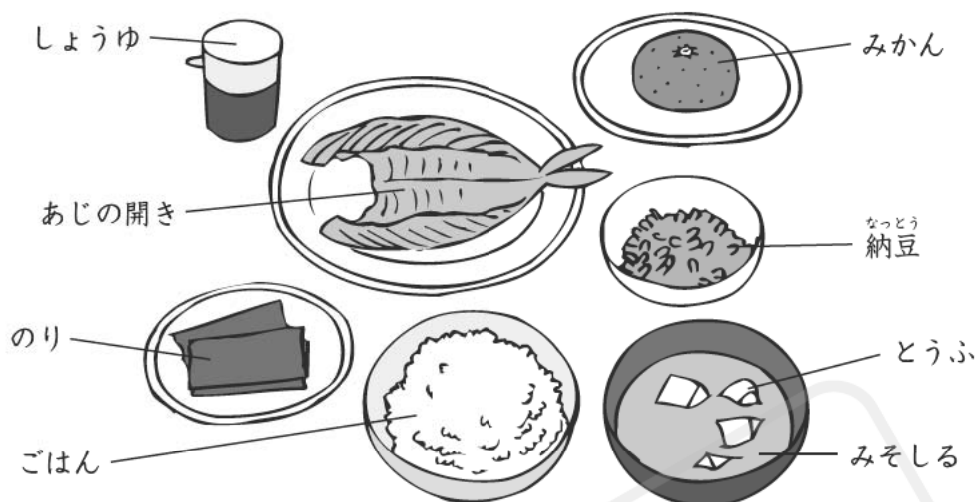
水をはった田んぼにはだして入ったまさおさんが「ぬるい」と感じたのは、外の空気よりも田んぼの水の中の(①)が高かったためです。

ステップ 2

水田であいがもがどのような活動をするかを考えます。(②)として雑草や害虫を食べて、(③)になるふんをはいせつします。

例題2

かなさんとおばあさんは島根県に旅行に来ています。そのとき、旅館で出た朝食について、話をしました。次の会話文を読んで、あとの問いに答えましょう。



おばあさん：「今日の朝食の中には、①大豆を使った食品が4つあったんだよ。」

かなこ：「えっ、そんなに使われているの？」

おばあさん：「そうだよ。農産物や水産物は、そのまま食べるだけでなく、工場などで加工して、別の食品になることもあるのよ。この島根県にも、漁港があるから、水産物を加工する工場があるわよ。」

かなこ：「そうだったのね。でも②大豆は日本じゃあまりつくられないみたいね。」

おばあさん：「そういえば、朝食のあじの開きも、この島根県でとれたものだと、おかみさんが言っていたわ。③わたしがわかいころは、遠くの海でとれた魚を食べることが多かったけれど、最近は日本の近くの海でとれた魚が多いわね。」

かなこ：「いろいろ食事も変わっているのね。わたしはいつも、魚を食べるより、肉を食べることの方が多いわ。」

おばあさん：「そうなのね。でも、④わたしが子どものころは、今日の朝食のようなメニューが多かったから、なつかしかったわ。」

かなこ：「いっしょにでてきたみかんは、とてもあまかったわ。みかんは和歌山県や愛媛県がおもな産地だと学校で習ったけど、ほかのくだものの産地はどうなっているのかしら。」

おばあさん：「りんごは青森県や長野県がおもな産地だよ。」

かなこ：「そうなのね。⑤みかんやりんごの産地には、どんなちがいがあるのかしら。」

(1) ——線①について、上の絵の中に、大豆を使った食品(材料や調味料をふくむ)が4つあります。その食品をすべて書きましょう。

() () () ()

(2) 線②について、次のグラフは、主な農産物の自給率の移り変わりです。米の自給率と比べて大豆の自給率はどうなっていますか。このグラフを参考にして説明しましょう。



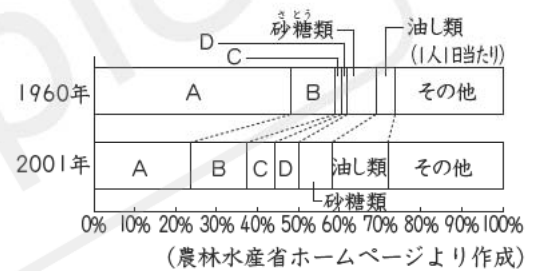
(「日本国勢図会2017/18」より作成)

(3) 線③について、今から50年ほど前の日本では遠洋漁業が盛んに行われていましたが、しだいにふるわなくなっていき、現在は沖合漁業や沿岸漁業よりも漁かく量が少なくなっています。航海の距離の単位である「海里」という言葉を使って、遠洋漁業の漁かく量が減った理由を書きましょう。



(4) 線④について、日本では食生活の変化によって、食品の消費量も変化してきました。右の資料は日本人の食べ物の変化です。グラフのA～Dは、それぞれ「米」、「小麦」、「肉類」、「牛乳・乳製品」のいずれかを示しています。「米」にあてはまるものを、グラフ中のA～Dから1つ選び、記号で答えましょう。

日本人の食べ物の割合の変化



(農林水産省ホームページより作成)

(5) 線⑤について、みかんとりんごはそれぞれどのような地域で、栽培されていると考えられますか。それぞれの地域の気候に注目して書きましょう。

みかん ()
りんご ()

考え方

ステップ 1 (①) は、納豆やとうふなどの原料となっています。しかし、国内の自給率は7%程度となっています。

ステップ 2 遠洋漁業は、遠くの海まで出かけて長期間にわたって行う漁業です。しかし、多くの国が自国以外の漁船の漁業を(②)するようになったため、遠洋漁業はおとろえていきました。

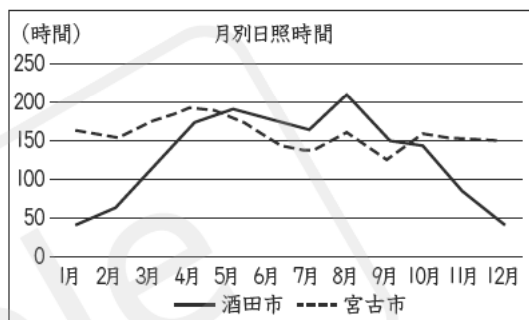
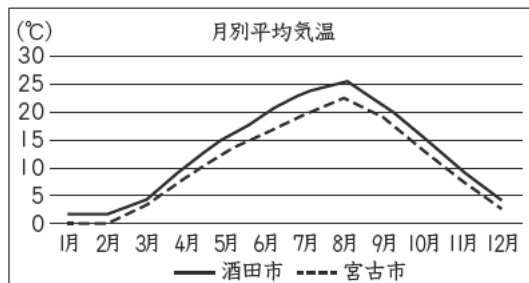
ステップ 3 海外から多様な食品が入ってきたため、日本人の主食である(③)の消費量が減っています。

ステップ 4 みかんのおもな産地である和歌山県や愛媛県は(④)な気候の地域、りんごのおもな産地である青森県や長野県は寒冷な気候の地域です。

確認問題

1 東北地方では、農業や漁業が盛んな地域が多くみられます。そのことについて、次の問いに答えましょう。 **例題1, 2**

□(1) 東北地方では、太平洋側よりも日本海側で米づくりが盛んです。その理由について、右の2つのグラフからわかることをもとにして書きましょう。なお、酒田市は日本海側の庄内平野に位置する山形県の都市、宮古市は太平洋側の三陸海岸に位置する岩手県の都市です。また、上は酒田市と宮古市の月別平均気温、下は酒田市と宮古市の月別平均日照時間をそれぞれ比べたものです。



(1981年～2010年の平均 気象庁の資料より作成)

□(2) 東北地方にある宮城県は、右の表のように全国でも有数の漁かく量の多い県です。また、他の漁かく量の多い都道府県と比較すると、宮城県では、北海道でとれる魚も、静岡県や三重県でとれる魚もとれることがわかります。このことには、日本のまわりを流れる海流が関係しています。

右の図に、(例)のように海流の流れ(→)と名前をかき入れたうえで、宮城県で、北海道でとれる魚も、静岡県や三重県でとれる魚もとれる理由を、かき入れた海流に関連して説明しましょう。

漁かく量の多い都道府県ベスト5

(単位万t)

	1位	2位	3位	4位	5位
1 北海道	たら 23.6	さけ・ます 14.2	さんま 7.1	ほっけ 5.2	ひらめ・かれい 2.3
2 長崎県	いわし 24.4	あじ 5.2	さば 5.1	ぶり 1.6	かつお 1.5
3 静岡県	かつお 19.7	さば 8.8	まぐろ 5.1	いわし 2.7	あじ 1.4
4 宮城県	いわし 18.5	さんま 2.9	かつお 2.2	まぐろ 2.1	たら 1.9
5 三重県	いわし 15.9	さば 4.1	かつお 3.7	まぐろ 3.2	いかなご 1.6

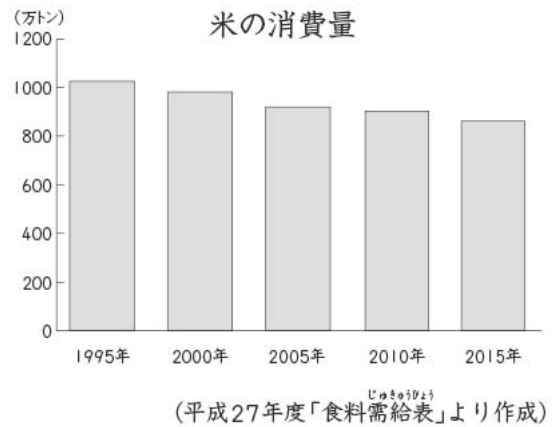
(農林水産省「平成25年度 海面漁業生産統計調査」より作成)



練習問題 A

1 日本の農業や水産業では、さまざまな工夫くふうが行われています。これについて、次の問いに答えましょう。

- (1) 米つぶを細かくつぶしたものを米粉といいます。近年、農家の努力もあって米粉の使用が広まり、パンやケーキ、クッキーなどの原料にされることが多くなりました。また、米粉を使ったうどんやラーメンなどのめん類も開発されています。このように農家が米粉のふきゅうはいけいに力を入れている背景として考えられることがらを、右のグラフにもとづいて説明しましょう。



- (2) 日本の水産業では、あみという漁具を利用した漁法がよく行われています。地域によっては、このあみの目を小さくしないで、一定の大きさ以上にすることが決められています。あみの目を大きくすると、どのような効果があるのかを考えて書きましょう。

- (3) 畜産がさかんな鹿児島県では、「かごしま黒豚くろぶた」というブランドをつくり、右のようなきびしい条件を定めています。また、店で売られている「かごしま黒豚」には、右のような「かごしま黒豚証明書」がはられています。このようにきびしい条件をつけたり、売るときに証明書がはられたりする理由を簡単に説明しましょう。

<きびしい条件>

- ・パークシャー種でないといけない。
- ・飼育期間の後期には、サツマイモを飼料として、一定量、一定期間与えないといけない。

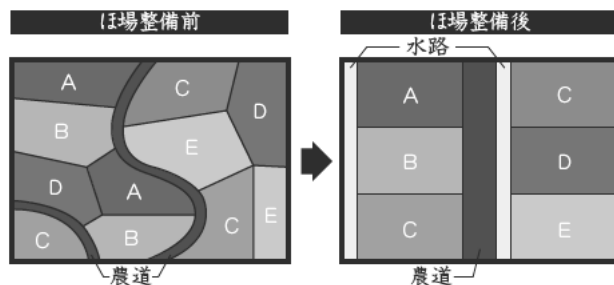
※パークシャー種は豚の品種の1つで、イギリスが原産。黒い体毛と良質な肉質が特色。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

練習問題 B

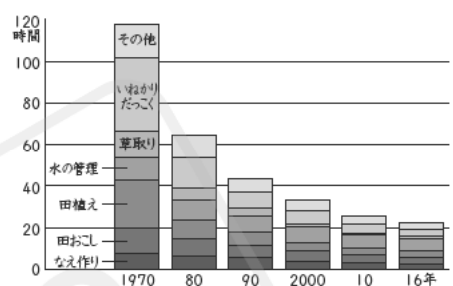
日本の農業や水産業では、さまざまな課題を抱えています。これについて、次の問いに答えましょう。

□(1) 現在、日本の農業では、高齢化や就労人口の減少による、人手不足が課題の一つとなっています。人手不足を解決するために、農家が協力して右の図のようにほ場整備という田の形や大きさをそろえる工事を行うことがあります。



グラフからわかることをもとにして、農家が田の形や大きさをそろえた理由を書きましょう。

グラフ 10aあたりの一年間の耕作時間の変化



(農林水産省調べより作成)

□(2) 現在、日本の政府は貿易の自由化について、外国の政府との話し合いを続けています。貿易の自由化とは、輸出や輸入のときかけられる関税という税金や輸入量の制限をなくすことです。しかし、農業を営む人で、貿易の自由化に反対している人は多くいます。次の文章は、貿易の自由化に反対する意見の一部です。



貿易が自由化されると、外国でつくられた安い農作物が多く輸入され、価格が高い国産の農作物は売れなくなります。そうすると農家の経営はきびしくなり、ので、日本の食料自給率が下がってしまいます。ですから貿易の自由化に反対します。

上のにあてはまる文章を考えて書きましょう。

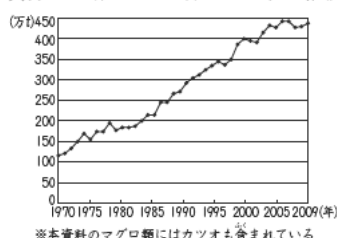
□(3) 現在、マグロ漁では、ある課題への対策のために、日本で完全養殖に成功したことが注目されています。完全養殖のような育てる漁業が注目される理由を右の資料1～3を参考にして書きましょう。

資料1 マグロ類の地域別漁業管理機関と主な規制措置

地域別漁業管理機関	近年の規制措置
大西洋マグロ類保存国際委員会	東大西洋クロマグロの総漁獲可能量を2007年からの4年間で2割削減する。
インド洋マグロ類委員会	メバチ・キハダについて、2007年から3年間、操業する船の数を2006年水準に制限する。
全米熱帯マグロ類委員会	メバチ・キハダについて、2012年の措置として、62日間の禁漁を設定する。
中西部太平洋マグロ類委員会	クロマグロについて、漁獲量を2002～2004年水準より増大させないよう制限する。

(水産庁「水産白書」より作成)

資料2 世界のマグロ類の漁獲量の推移



※本資料のマグロ類にはカツオも含まれている

(EAO 統計より作成)

資料3 マグロ類の海域別資源状況

海域	大西洋	インド洋	東部太平洋	中西部太平洋
クロマグロ	低位/→	-	-	中位/→
メバチ	低位/→	中位/→	低位/→	中位/→
キハダ	中位/→	中位/→	中位/→	中位/→

「資源水準/資源動向」の順に表示
 ・資源水準：現在生息するマグロの量を、高位、中位、低位の3段階で表したものです。
 ・資源動向：2005年～2009年のマグロの量の変化を増加(↑)、横ばい(→)、減少(↓)で表したものです。
 ・表中の(-)は、関係する数値がないことを表しています。

(水産庁平成21年度「国際資源の現況」より作成)